

第 86 期

中間報告書

2023年1月1日～2023年6月30日

株式会社堀場製作所

証券コード：6856



売上高と全ての利益で 過去最高を更新 さらなる可能性を グローバルに追求

代表取締役会長兼
グループCEO

堀場 厚

2023年度中間期における当社グループの業績は、売上高1,311億円(前年同期比14.0%増)、営業利益178億円(同9.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益190億円(同69.1%増)と前年同期比で大幅な増収増益を達成しました。半導体市場における受注動向は一服感があるものの、新たな規制需要に後押しされた自動車セグメントをはじめ、全てのセグメントでビジネスを拡大し、中間期の当社グループ全体の売上高と全ての利益で過去最高の結果となりました。なお、1株当たりの中間配当金につきましては、80円といたしました。

この中間期までの進捗等に鑑み、2023年8月9日に公表した最新の業績予想では、売上高2,810億円、営業利益410億円、親会社株主に帰属する当期純利益355億円とし、2023年度を最終年度とする中長期経営計画「MLMAP2023」^{*}の利益目標を達成する見通しです。そして、1株当たりの年間配当金の予想は255円(中間80円・期末175円)としています。

2023年は、創立70周年であり、「MLMAP2023」の最終年度です。「MLMAP2023」においては、多くの社会課題と事業機会があると当社が考える市場、すなわち「エネルギー・環境」、「バイオ・ヘルスケア」、「先端材料・半導体」を3つのフィールドと掲げ、セグメントの枠を超えた連携によりビジネスをグローバルに拡大してきました。

今年4月には米国のヘッドクォーターであるホリバ・インストルメンツ社が創立50周年を迎えました。現在の当社グループの事業をリードするさまざまな技術は、1970年代に米国における事業

買収を通じて取得してきた歴史があります。排ガス測定のためのガス流量制御やサンプリング技術、エンジン開発の総合試験設備の先駆けとなるプロジェクトマネジメント技術等がその代表例です。また、主力製品であるマスフローコントローラーに使われている圧力式流量制御技術は、半導体産業の黎明期に取得した技術です。1990年代後半にはホリバABX社(仏国)やホリバ・ジョバンイボン社(仏国)、2000年代にはカール・シェンク社(独国)、ホリバMIRA社(英国)やホリバ・フューエルコン社(独国)等、欧州を中心に事業・企業買収によって事業の種類を増やし、またグローバルに顧客ネットワークを拡大してきました。このように、先見性をもった技術の取得がHORIBAの最先端ビジネスをリードしています。

そして、水質計測機器を開発・生産・販売するTethys Instruments SAS社(仏国)も2023年中間期に当社グループに加わりました。同社は、光を使った水質計測技術と、インド、東南アジア、中国における強い顧客ネットワークを保有しており、技術と販路双方でのシナジーを期待しています。

今後、さらなる企業価値向上のために、3つのフィールドを軸にこの流れをさらに加速させ、HORIBAの可能性をグローバルに追求していきます。

オーナー(株主)の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

^{*}1 MLMAP(Mid-Long Term Management Plan)：当社では中長期経営計画を「MLMAP」と称しています。

HORIBAが挑戦する3つのフィールド



自動車

欧州の次期排ガス規制「Euro7」の導入による排ガスビジネスの需要増加に応えながら、電動化、自動運転、サイバーセキュリティ等の自動車新領域での車両開発を支援する幅広いソリューションを提供しています。



環境・プロセス

地球環境の保全および人々の安全・安心・健康を支えるために、大気・水質等の分析・計測機器を提供しています。



医用

小型の血球計数装置から、検査室用の多検体処理装置まで、クリニックや病院、検査センター向けに機器や試薬を提供しています。



半導体

主力製品であるマスフローコントローラーをはじめ、薬液濃度モニター、異物検査装置等、半導体製造プロセスに、高品質なソリューションを提供しています。



科学

X線を用いた元素分析、光学技術を用いたラマン分光・蛍光分光分析の分野で最先端の研究に貢献しています。また、医薬品・食品等の産業分野や、犯罪捜査、考古学の研究等にも幅広く貢献しています。



Energy & Environment エネルギー・環境

持続可能な社会の実現に向けて
エネルギーネットワークの
変革に貢献する

CO₂排出量の削減に「はかる」技術で貢献

化学吸収法^{※2}を用いたCO₂の分離・回収により、工場や事業所から出る排ガスに含まれるCO₂の排出量を削減することができます。当社グループの分析・計測機器は、化学吸収法のプロセスで幅広く活用されており、CO₂排出量の削減を通じて持続可能な社会の実現に貢献しています。

※2 化学吸収法：アミン溶液を用いて、CO₂と液体の化学反応を利用し、CO₂を分離・回収する方法

Bio & Healthcare バイオ・ヘルスケア

健康で安全・安心な生活を守るため、
バイオ/ライフサイエンスの
研究を支える

血液分析装置の試薬チップ生産増強 見える生産ラインが完成

遠心方式血液分析装置「Yumizen M100 Banalyst(バナリスト)」の試薬チップを製造するエリア「M-FRONTIER(エムフロンティア)」を新たに当社本社内に設立しました。M-FRONTIERは、生産ラインが外部から見える構造になっており、生産効率の向上を実現します。

M-FRONTIER
Micro Reagent Chip Production Area

M-FRONTIER命名コンセプト
MICRO(微細)&
MACHINE(機械)の
MANUFACTURE(製造)で
MUGEN(無限)に
MIRAI(未来)の
FRONTIER(市場)を開拓する

遠心方式血液分析装置「Yumizen M100 Banalyst」
検査室の大型機器と同等の性能で、微量の血液で糖尿病や感染症のスクリーニングに役立つヘモグロビンA1cやCRP、高感度CRP等の項目を院内で即時検査できる微量血液検査システムです。必要血液量が少ないため、一般内科だけではなく小児科や新生児集中治療室でも使用することが可能です。

Material & Semiconductor 先端材料・半導体

新しい日常の実現に欠かせない
高度な情報技術を支える

多面的に活躍するマスフローコントローラー さらなるシェア拡大へ

◆太陽光パネルの製造増加に伴う需要拡大

中国では太陽電池等の再生可能エネルギーやパワー半導体といった市場への投資が拡大しており、製造装置のキーコンポーネントであるマスフローコントローラーの需要が増加しています。

当社グループの、中国でマスフローコントローラーのビジネスを展開する厚礼博精密儀器(北京)有限公司における生産体制を強化し、さらなるシェア拡大に取り組みます。

◆人工ダイヤモンド製造に寄与

人工ダイヤモンドの製造には一般産業用マスフローコントローラーが使用されるため、インドを中心に受注が増加しています。当社グループのホリバ・インド社で一般産業用マスフローコントローラーの生産を開始し、グローバル展開を強化しています。

水質計測システムの技術力・ラインアップを強化

テティス インストルメンツ
Tethys Instruments社(仏国)を買収

当社グループの水質計測事業を担う株式会社堀場アドバンスドテクノ(以下、堀場アドバンスドテクノ)は、2023年4月に環境・プロセス市場向けに水質計測機器を開発・生産・販売するTethys Instruments SAS(以下、Tethys社)を買収する契約に署名しました。

堀場アドバンスドテクノは日本市場を中心に水処理プロセス向けの計測産業に事業を展開し、高いシェアと信頼を得るまでに成長を遂げました。今後さらなる成長のために、「世界中のあらゆる水質を守る」というミッションを掲げ、グローバル市場での事業力強化を推進しています。

Tethys社の強みであるUV分光技術と、当社グループが培ったコア技術とのシナジーで新製品開発を促進し、グローバル市場における水の安全・安心と環境保全に貢献します。

さらに、Tethys社が持つ、インド、東南アジア、中国における専門性の高い販売ネットワークを活かし、新興国におけるビジネス展開を加速します。



Tethys社の主要製品
オンライン水質計測機器



(左)堀場アドバンスドテクノ代表取締役社長 西方健太郎
(右)Tethys Instruments SAS, President Uday Patel



Tethys Instruments SAS

【会社概要】
会社名 Tethys Instruments SAS
設立 2002年
所在地 仏国(グルノーブル近郊)
事業内容 水質計測機器の開発・生産・販売・サービス

ブレーキダスト・タイヤダストの測定も可能に!
「SPCS-ONE」を発売

当社は、連続固体粒子数測定装置「SPCS^{※3}-ONE(エスピーシーエスワン)」を2023年2月から発売を開始しました。自動車のエンジンなどから排出される固体粒子を連続測定する「SPCSシリーズ」は、最新規制への測定ニーズに応え続けながら自動車開発の現場で活用されてきました。

本製品は、ブレーキダスト・タイヤダスト^{※4}や、直径10nm以上の粒子数(SPN^{※5}10)も効率的に測定することができます。また、当社独自の総合計測プラットフォーム「HORIBA ONE PLATFORM」へ新たに適応したことで、複数の装置の測定データを一元管理し、研究開発現場の業務効率化に貢献します。

※3 SPCS: Solid Particle Counting System
※4 ブレーキやタイヤの摩耗に伴い発生する粉塵
※5 固体粒子数(Solid Particle Number)



連続固体粒子数測定装置
「SPCS-ONE」

Ceres Power社(英国)と協業
水素燃料電池試験施設を設立

当社グループのホリバMIRA社(英国)は、Ceres Power社との協業により、英国最大規模の水素燃料電池試験施設を設立しました。

この施設は、水素技術の研究と開発を推進することを目的としており、マッピング試験や耐久試験等、各種性能試験を行うことが可能です。

Ceres Power社とのパートナーシップにより、燃料電池・水電解装置等、水素エネルギーの活用に貢献します。



(左) Ceres Power, Chief Operating Officer Mark Garrett
(中央) British Chambers of Commerce, president Baroness Martha Lane-Fox
(右) 当社 代表取締役会長兼グループCEO 堀場厚

工業会の発展に貢献します

齊藤代表取締役副会長がJEMIMA会長、
足立代表取締役社長がJAIMA会長にそれぞれ就任

一般社団法人日本電気計測器工業会(Japan Electric Measuring Instruments Manufacturers' Association: JEMIMA)会長に当社代表取締役副会長兼グループCOO 齊藤壽一が就任、一般社団法人日本分析機器工業会(Japan Analytical Instruments Manufacturers' Association: JAIMA)会長に当社代表取締役社長 足立正之が就任いたしました。

分析・計測技術をコアに持続可能な社会づくりに貢献するHORIBAならではの強みをもとに両工業会の活動活性化、ひいては世界の科学・産業発展に貢献していきます。



当社 代表取締役副会長兼グループCOO 齊藤壽一
当社 代表取締役社長 足立正之
就任スピーチの様子

HORIBA C-CUBE(中国)
「Analytical Solution Plaza」オープニングセレモニーを開催



「HORIBA C-CUBE」
中国における当社グループ最大の拠点であり、生産機能の確立および技術開発拠点として建設しました。2021年の竣工以降、環境・プロセス、半導体、自動車市場向けの製品について、中国国内の需要に特化した開発・エンジニアリングを推進しています。

- 所在地 上海市嘉定区
- 建物面積 33,123m²
- 総工費 約90億円
- 竣工 2021年6月



エンジニアリングルーム

先端アプリケーション開発センター「Analytical Solution Plaza」

2023年4月25日、HORIBA C-CUBEにて先端アプリケーション開発センター「Analytical Solution Plaza(以下、ASP)」のオープニングセレモニーを開催しました。

ASPは装置の分析デモやエンジニアリングだけでなく、「お客様とともに開発する」をコンセプトに、協業によるクロスセグメントを通じたアプリケーション開発も可能です。

セレモニーでは来賓として中国が先導する先端材料・半導体及びバイオ・ヘルスケア分野をメインに業界を代表するお客様55名にご出席いただき、パートナーシップ契約の調印式、工場見学等を行いました。



パートナーシップ契約調印式



創立70周年記念式典を開催

オーナー(株主)の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援、ご指導の賜物と心より感謝申し上げます

2023年1月28日、国立京都国際会館において、創立70周年記念式典を開催しました。国内外のホリバリアン^{※6}約2,700名が一堂に集い、さらにオンラインで世界各国のホリバリアンにも同時中継されました。創立70周年記念式典が、ホリバリアンそれぞれのはじまりの日であり、未来に向かって前に進む「Starting line」となるという意味が込められた「Day One, Our starting line」というコンセプトのもと、創立当初から築き上げてきた歴史や大切にしている文化を振り返るとともに、これからのHORIBAのあるべき姿をホリバリアン全員で考える場となりました。



式典の様子

創立100周年に向けて「Our Future Project」始動

国内外の若手メンバーを中心に、「Our Future Project」を立ち上げ、創立100周年に向けて、HORIBAのめざす未来について議論を進めています。社は「おもしろおかしく」に込められた思いをホリバリアン全員の共通価値観として心に刻み、さらなる発展をめざします。

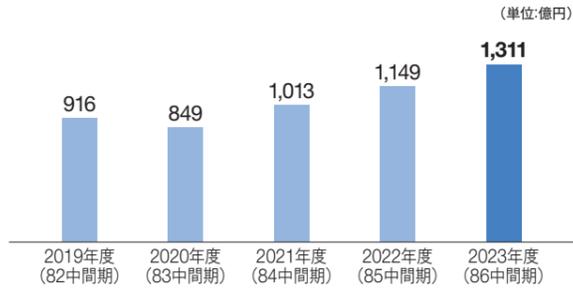
※6 ホリバリアン: 当社グループで働くすべての人を同じファミリーであると考え、ホリバリアンという愛称で呼んでいます。

中間業績ハイライト

売上高

1,311億円

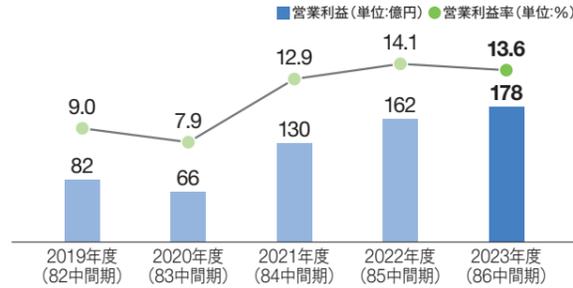
(前年同期比14.0%増)



営業利益

178億円

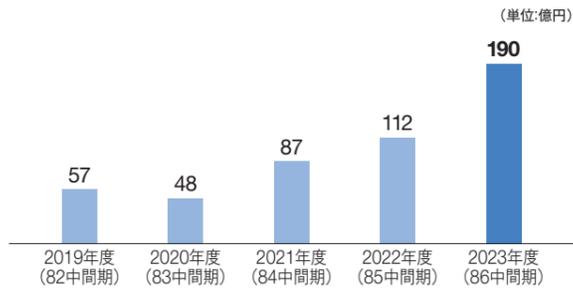
(前年同期比9.7%増)



親会社株主に帰属する四半期純利益

190億円

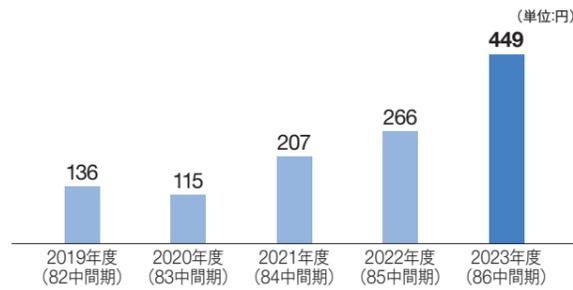
(前年同期比69.1%増)



1株当たり四半期純利益

449円

(前年同期比68.9%増)



中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 億円)

科目	2019年度 (82中間期)	2020年度 (83中間期)	2021年度 (84中間期)	2022年度 (85中間期)	2023年度 (86中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	138	153	158	102	36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 42	△ 50	△ 69	△ 30	△ 12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 72	△ 30	△ 31	△ 69	△ 185
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5	△ 9	20	50	44
現金及び現金同等物の四半期末残高	646	1,023	1,219	1,392	1,270

オーナーの皆様への利益配分について

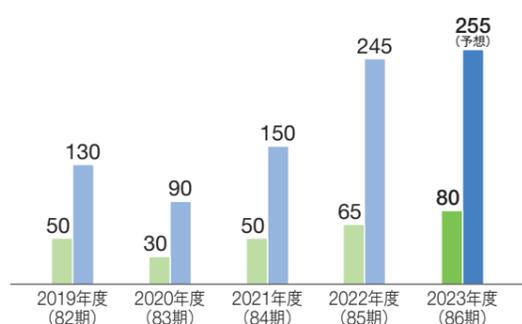
当社では、安定的な経営基盤の確保および事業展開のための内部留保を勘案しながら、オーナーの皆様への利益還元を最重要課題の一つとして捉え、配当金と自社株買いを合わせた株主総還元額を、連結純利益の30%を目処とすることを基本方針としております。

こうした方針のもと、8月9日現在、2023年度通期の配当予想を1株当たり255円としており、このうち、2023年度中間配当金としましては、1株当たり80円といたしました。

1株当たり中間配当金

80円 (前年同期比15円増)

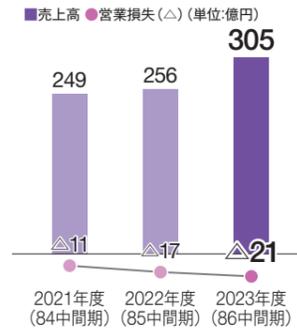
■ 中間配当金 / ■ 年間配当金 (単位: 円)



セグメント別の状況

自動車セグメント

売上高 **305億円**



アジアにおいてエンジン排ガス測定装置、また欧州においてMechatronics (自動車計測機器) 事業等の販売が増加し、売上高は305億円と前年同期比18.9%の増収となりました。利益面では、成長分野への投資拡大による費用の増加等から、21億円の営業損失となりました(前年同期は17億円の営業損失)。

環境・プロセスセグメント

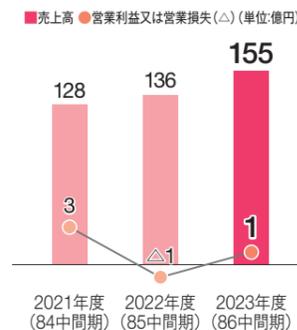
売上高 **113億円**



欧州において大気汚染監視用分析装置、また米州においてプロセス計測設備事業及び水質計測装置の販売が増加しました。この結果、売上高は113億円と前年同期比11.2%の増収、営業利益は9億円と同43.6%の増益となりました。

医用セグメント

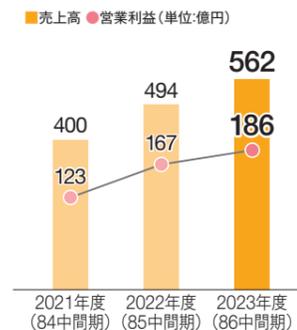
売上高 **155億円**



日本、米州において血球計数装置や生化学用検査装置並びに試薬の販売が増加しました。この結果、売上高は155億円と前年同期比14.0%の増収、営業利益は1億円となりました(前年同期は1億円の営業損失)。

半導体セグメント

売上高 **562億円**



足元では一服感があるものの、前期までの高水準な受注残高により半導体製造装置メーカー向けの販売が増加しました。この結果、売上高は562億円と前年同期比13.8%の増収、営業利益は186億円と同11.4%の増益となりました。

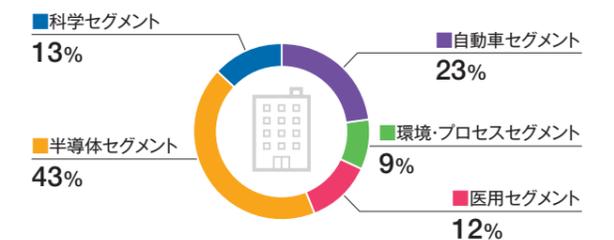
科学セグメント

売上高 **174億円**



アジアにおいてラマン分光分析装置等の販売が増加したことから、売上高は174億円と前年同期比8.8%の増収となりました。利益面では、製品売上構成の変化等により、営業利益は2億円と同72.1%の減益となりました。

セグメント別売上高構成比



地域別売上高構成比



大阪・関西万博 (EXPO2025) の テーマ事業「いのちを拡げる」へ協賛

当社は、大阪・関西万博のテーマ事業「シグネチャーパビリオン」において、石黒浩テーマ事業プロデューサーがリードする「いのちを拡げる」をテーマとした「いのちの未来」パビリオンにブロンズパートナーとして協賛しています。

「いのちの未来」パビリオンでは、協賛企業がそれぞれの視点で考える50年後の未来のアイデアを持ち寄り、石黒浩テーマ事業プロデューサーが考える「いのちの未来」に沿った演出を検討しています。当社グループ内でのディスカッションに加え、協賛他社をびわこ工場に迎え、各社の考える未来のシーンをHORIBAのはかる技術によってどう表現できるかを検討するディスカッションも実施。2025年の開幕に向けて活動を加速させています。

いのちの未来紹介ウェブサイト:

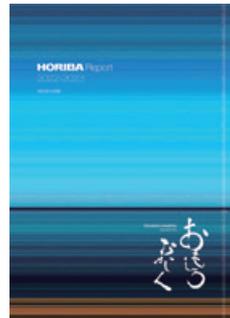
<https://www.expo2025.or.jp/overview/project/#p02>



「HORIBA Report 2022-2023」を発行

当社グループのさらなる価値をご理解いただきたいという思いから、事業内容や財務諸表とともに、財務諸表には載らない、企業文化等の「見えない資産」について紹介する統合報告書「HORIBA Report」を発行しています。

最新版では、HORIBAの半導体ビジネスを語るマネジメント鼎談を企画。また外部有識者と社長の対談や特集等、様々な側面からHORIBAの「今」、そして「多様性」と「個性」を紹介する1冊です。ぜひご一読ください。



<https://www.horiba.com/jpn/company/investor-relations/ir-library/horiba-report/>

統合報告書「HORIBA Report 2022-2023」を発行しています。当社ウェブサイトにてPDF版をご覧いただけます。

HORIBA Report

検索

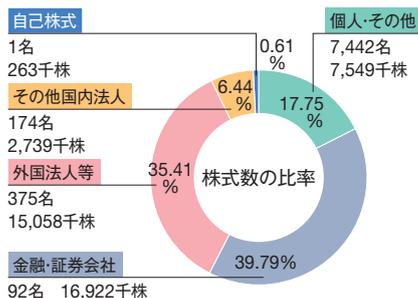


株式の状況

株式の状況 (2023年6月30日現在)

発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式の総数 42,532,752株
株主数 8,084名

株主構成



大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,192	14.65
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,410	8.07
全国共済農業協同組合連合会	1,682	3.98
堀場 厚	1,089	2.58
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS - SUSTAINABLE WATER AND WASTE POOL	1,000	2.37
京都中央信用金庫	835	1.98
株式会社京都銀行	828	1.96
堀場洛楽会投資部会	826	1.96
堀場グループ従業員持株会	764	1.81
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	675	1.60

(注)持株比率は自己株式(263,029株)を控除して計算しております。

表紙写真



撮影者: 松井 秀雄

オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日 定時株主総会 期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	Tel:0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間:9:00~17:00(土日休日を除く)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ (https://www.horiba.com/jpn/) に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



70周年記念ロゴマーク
HORIBAが持つ5つのセグメントが混ざり合い、次なるステージへ突き進むイメージに加え、HORIBAの無限の可能性を∞のシルエットから着想を得て、右上がりに70度の角度をつけた「70」で、右肩上がりに成長するイメージを表現しています。

この印刷物は、環境に配慮し
植物油インキを使用しています。

